

メロン「イバラキング」の果皮色は「アンデス5号」より濃く推移する

[要約]「イバラキング」では、ネット発生期の果皮色が「アンデス5号」より濃く推移するため、果実が軟らかいと誤解しやすいが、果実の硬さは同程度である。ネット発生期に温度を十分に確保（10℃以上）し、果実の硬化を防ぐことで、ネットの発生が安定する。

茨城県農業総合センター園芸研究所

平成 23 年度

成果
区分

技術情報

1. 背景・ねらい

メロン栽培において、ネット発生期の果実の硬化程度（硬さ）を知ることは、良質のネットを発生させる上で重要である。一般に、メロンは硬化に伴って果皮色は淡くなるが、「イバラキング」は果皮色の推移が慣行品種と異なるため、果実硬化程度の判断が難しい。そこで、果実の硬さを表す打音伝搬速度および果皮色について「アンデス5号」と比較し、「イバラキング」のネット発生期の硬さ・果皮色とネット発生との関係を明らかにする。

2. 成果の内容

- 1) ネット発生期の「イバラキング」の果皮色は、「アンデス5号」より濃い（図1）。
- 2) 4月上旬受粉の果実において、硬さ（打音伝搬速度）は「イバラキング」と「アンデス5号」はほぼ同様に推移するが、果皮色は「イバラキング」が「アンデス5号」より濃く推移する（図2）。
- 3) 2月18日受粉の「イバラキング」において、硬さ（打音伝搬速度）は、低温区で硬く、適温区で軟らかく推移し、いずれの区においても受粉後21日目（3/11）に最も硬くなる（図3A）。果皮色は、適温区が低温区より濃く推移する（図3B）。果実が比較的硬く（打音伝搬速度が大）、果皮色が淡い（L値が50以上）場合に、無印以下の等級となる果実が発生する（図3C）。

3. 成果の活用面・留意点

- 1) 果皮色の測定には色彩色差計（M社製）を、硬さ（打音伝搬速度）の測定には専用測定機（T社製）を利用できる。
- 2) 果皮色および硬さ（打音伝搬速度）は果実赤道部の定点を継続的に調査する。硬さ（打音伝搬速度）は測定点の違いにより数値が大きく異なる場合がある。
- 3) ネット発生期には、温度を十分に確保して果実の硬化を防ぐとともに、灌水は控え、ネットが全体に発生した後に灌水を行う。

4. 具体的データ



図1 ネット発生期における「イバラキング」(左)と「アンデス5号」(右)の果皮色

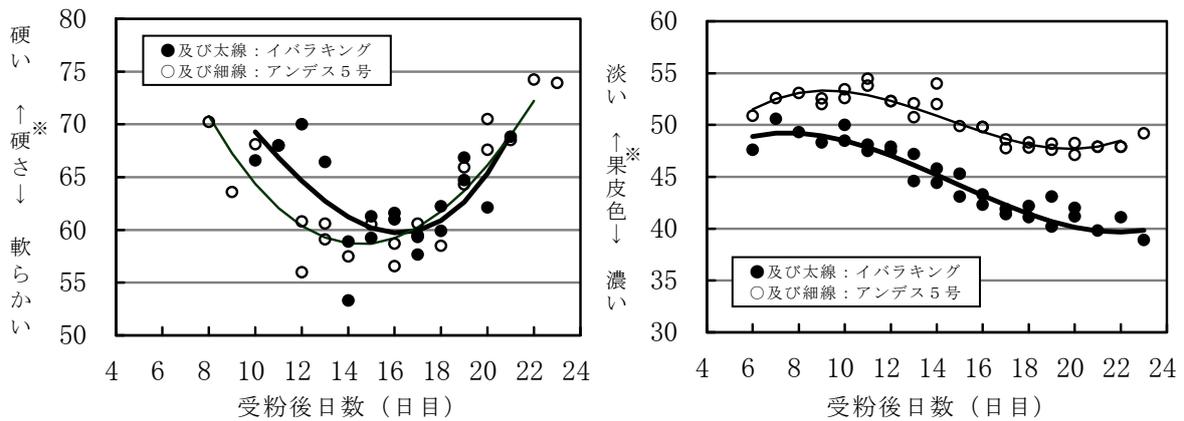


図2 メロン「イバラキング」と「アンデス5号」における硬さ(左)と果皮色(右)の推移
イバラキングは4/6~12受粉、アンデス5号は4/9~14受粉の果実

※ 硬さは打音伝播速度 (m/s)、果皮色は色彩色差計におけるL値

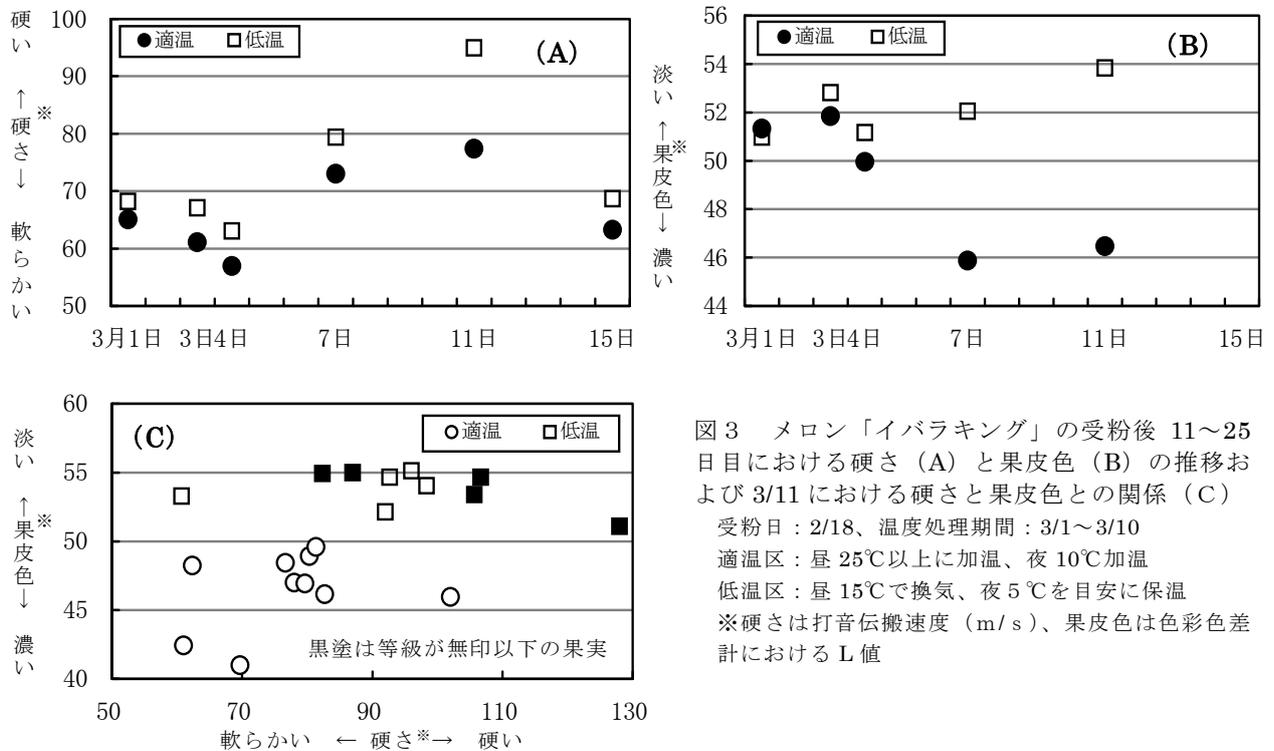


図3 メロン「イバラキング」の受粉後11~25日目における硬さ(A)と果皮色(B)の推移および3/11における硬さと果皮色との関係(C)

受粉日: 2/18、温度処理期間: 3/1~3/10

適温区: 昼25℃以上に加温、夜10℃加温

低温区: 昼15℃で換気、夜5℃を目安に保温

※硬さは打音伝搬速度 (m/s)、果皮色は色彩色差計におけるL値

5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

メロン「イバラキング」の高品質安定生産技術の確立・平成20~23年度・野菜研究室